

# メンバーに聞く

国学院久我山高校ラグビー部現役時代の思い出・今

## 昭和40年・回顧その2

17期3年生・18期2年生・19期1年生

49年ぶり・・・そして悔い 伊東克典（17期）FW 1

2014年8月、ここ菅平へ49年ぶりにたどり着く・・・

土埃りの荒れたグラウンドや、鉄拳制裁付き正座一時間（同期・伊佐君は二時間）をくらった古びた宿舎は・・・？ 何面も何面もの色鮮やかな芝のグラウンドを目の前に まるで



浦島太郎状態「このグラウンドで練習した！」こう知らされてもカケラも見いだせない、まるで途方にくれた迷よい子の様である。

「アノ土手の向こうの畑から頂戴したトウモロコシの旨かったこと」。今回ここまで引っぱり出してくれた同期・伊佐のその一言・・・！グラウンドの片側の土手・・・！ そうか！ ここだったか！ 《もぎたてをそのままシャキシャキ・あのトウモロコシは甘かった！小松は芯まで喰ったっけ！》アノ土手だ！ あの土手で甦る・・・・・・49年前・・・まだ二十代の中村誠先生のダミ声

「なんだ！こんな弱いフロントロー！向こうの土手に押し付けてやれ！」

我々フロントロー三人、台は五人、ときに八人。スクラム！スクラム！コノ先生、ナカムラマコトは、数ノ、カゾエカタガ、ワカラナイノダ「ラスト1本！ アト1本！ マダマダ1本！ コレカラ1本！」

頭の中で憎まれ口をたたくことで気分を発散しきつい練習に耐えた成程、見違える程スクラムは強くなった。この年韓国の大邱商高が来日、5月20日にオール東京と対戦。久我山からそのオール東京に2名（FW・榎本光二・小村裕介）選出されたが、これは久我山初のことで、強力FWが出来上がりつつある証でもあっただろう。



榎本光二  
(旧姓・和泉)

岡崎均

伊東克典

第一列  
右から



国体予選東京大会決勝進出、又、日体大の練習に参加させてもらったりと久我山始まって以来という経験の積み重ねが自信となり、いよいよ全国大会出場をかけた東京予選。春の大会決勝で対戦した保善高校とは別ブロックという事も有り期待は大いに高まった。が、結果全国大会出場には及ばなかった。

その後、18期～20期までの積み重ねを経て4年後に21期の代で全国大会初出場となるのである後日同期の連中にこの大会にかける気持ちを聞いてみた。大半の者が「絶対全国大会に行く！」

「何が何でも！」と意気込んで臨んでいたという。翻って私はというとスクラムにかける力が少なくなった分ただ楽をしていただけ！全国大会に向けても、「花園か！行きテーナ！」「全国大会行けたらイ～ナ～！」程度のぬるい気持であった。この私が皆と同じ気持ちでいればとの思いが胸に重い。この私が、皆の夢を打ち砕いてしまったのではないか？このグラウンドを前にそんな悔いが49年経った今も、消えない。

2015年8月、又暑い夏が来ました

今、現役の諸君は全国大会出場に向け頑張っている事でしょう。春は今一の状態でしたが毎日毎日その全てを出しきって欲しい。そうすれば日、一日々日と成長できるのですから。現役諸君には是非、後悔のないよう精進に精進を重ねてもらいたい。

・・・悔いは50年経っても消えないのですから・・・

次回・メンバーに聞くは  
久我山高校ラグビー部の歴史に輝かしい一頁を記した  
全国大会初出場21期の巻  
乞・ご期待

マコチャンズへのご意見・ご要望等はスタッフまでご連絡下さい

チームスタッフ



17期 伊佐光市・伊東克典

18期 井上 正・萩原光一

23期 深野敏雄

25期 和田五朗

29期 井上賢和

31期 今野貴之

33期 影山辰士

34期 北村 慶